

Nijnohin (人本日) について

David K. Reynolds, Ph.D.

dkreynoldsjapan@gmail.com (日本語対応返事英語)

dkreynolds@juno.com (英語)

<http://constructiveliving.org> (英語)

<http://constructiveliving2.weebly.com/>



はじめに

1960年に私は米国海軍の無線技師として初めて日本に行きました。退任後、Nijnohin (人本日) の心を理解するためにUCLA (カリフォルニア大学) に入学しました。博士論文はNijnohin 精神療法に焦点を合わせたものです。訪日当初は まったく日本語は話せませんでした。その後論文研究のために1967年に再来日した頃には、だいぶんわかるようになりました。それ以来毎年、半年間ほど滞日しました。たくさんの変化が滞在期間中に起きます。変化は不安定をもらすと共に刺激的な冒険と可能性をもたらしました。

この50年にわたって目撃した日本の変化についてこの本に書いています。考えつくまま、常に変化する日本とNijnohin の人々の様子を描いたにすぎません。たぶん、あなたはこの本からNijnohin より私について多くを学ぶでしょう。著者が何を無視し、何について書くべきか選択しなくてはならないことは確かに本当です。1日のできごとすべてを表した本などありませんから。著者が何を書き、何を省略すべきかは著者自身の関心次第です。ですからあなたは一人の外国人によって書き留められた日本の変化に関する考えを読むことになります。あなたがこの本を読んで、Nijnohin についてだけではなく、以前には気づかなかった、自分自身を理解するのに役立ててくれたらと希望します。もちろん、Nijnohin に関するどんな一般論でも個人的な例外は隠されていますが、個人主義を強調するアメリカより日本では例外は少いでしょう。

理解と順守

先日私はテレビでNijnohin のホームドラマを見ていました。一つめは年配の女性が家族に愛されないと沈んでいました。画面が変わって彼女は一人だけで食卓の前に座り「わからない!」と大声で言いました(「わからない」は「私は理解しません」という意味です)。その日の夕刻に、別のテレビ番組で主婦が夫の不まじめな計画に反対していました。誠実さのない夫の行動に関わりたくなかったのです。部屋を出て「知らないわ」と反発しました(「知らないわ」はそれについて何も知りません」という意味です)。三つ目は同じ番組で夫が部下に指示を与え、若い部下は「わかりました」と返事しました(「わかりました」は文字通り「私は理解しました」という意味です)。任務を遂行することを意味します。

これらの3つの場面に共通するのは何かというと、理解と行動に関して興味深いNijnohin の関係を代表しています。Nijnohin は、本当に理解したことはそれに同意して、その通り行動するに違いないと考えるようで

す。初めの年配の女性は落ち込んでいて、家族の行動を理解しなかったので彼女の立場でどうすることもできませんでした。二つ目の主婦は、夫の不まじめな計画について何も知らなかったと断言することで、協力を拒否できました。そして三つ目では、部下は指示を理解したと言って、任務に同意しました。

理解に関しては日本の子育てと関係があります。Nijnohin たちが子供を育てるのによく使うやり方を見るとアメリカの子育て方とはだいじな違いがあるのがわかります。Nijnohin の母親は、子供がすべきことを理解していないから行儀悪く振る舞うと考えるようです。子供が自分の置かれた立場をわかって、その状況にふさわしい行動を知っているなら社会で受け入れられる行動をするにちがいないと考えるようです。この目的をめざして Nijnohin の母親が幼児にも正しい行動とその理由を説明しているのを見かけることができます。一度理解すれば子供は正しいことをするに違いないと考えます。

アメリカの親が理解と適切な行動の関係をつなげるのは少ないと思います。おそらく、行儀悪く振る舞っている子供はどうするのが正しいことか知っているけど、わざと行儀悪く振る舞っていると考えるようです。子供はいたずらです。いたずらなのは教育の失敗ではなく、無作法をする子供の性格形成の欠如のせいなのです。

そこで、Nijnohin は子供たちは良い子だが、教育が必要として子育てに当たります。与えられた状況でさまざまな振る舞い方があって一つに限定される場合や強い伝統が残っていて伝統的な行儀作法がはっきりしている場合、このやり方はうまく働きます。親に時間があり、子供たちに指示したり、行動を説明する手間暇をかけるのをいとはない場合は効果があります。

他方、アメリカのやり方は子供たちは時々悪く、いろいろな状況で、適切で期待される行動がなにか知っているが、その場での新しい答を探したがると思います。それは子供が必要とする教育ではなく、親から多くのコントロールを受けます。ですからアメリカの親は、子供以上の力を親として示す時間をかけるのをいとわないに違いありません。「どうして毎日家の仕事をしますか？なぜなら私がするように言ったからです！」

時にアメリカの親が幼い Nijnohin の子供たちが行儀悪くふるまうのを見て、Nijnohin の親は子供を十分にコントロールしていないと苦情を言います。また時には Nijnohin の親がアメリカの親の厳しいしつけ方を見て、子供たちにあまりにも厳しいと訴えます。一つの子育て方が別のやり方より良いというわけではありませんが、Nijnohin のやり方は少し変えなくてはならないと考えます。そして実際変化していると思います。前記のとおり、Nijnohin の子育てはきまった規律のある伝統的な社会や予測できる状況で限られた行動では効果的です。しかし、近代的な世界の中で、日本はもはや純粋に伝統的な社会ではありません。子供にすべての状況で何が適切な行動であるかを説明するのは、容易ではなくなりました。親自身、新しい状況での適切な行動を知りません。さらに、日本の多くの母親が少なくともパートタイムで働くという状況で、詳しく説明する時間がありません。新しい状況に個々の判断を増やす必要があります。個々の判断の発達の子供の早い時期から始まります。

さらに理解と行動の Nijnohin の考えを見ると、親の動機は子供に役立つことで、子供のためには何でもするという信念であるように思われます。親のアドバイスは子供のためなので、子供は親のいうことをすべきだということです。

子供が本当に親の指示を理解するなら、子供は自分に有益であると理解します。子供が本当に立場を理解したなら、子供たちが従わないわけではないということです。誰が自分のためになることに逆らいたいでしょうか？

Nijnohin の子供たちが成長するにつれ、同じく他の人たちも子供が自分に有益な行動をするよう納得させようとします。子供が他の人たちの言うようにすると褒められます。本当に理解することは、他の人たちが言うようにすることです。そこで理解と服従の自然な関係は続きます。あいにく、社会やビジネスの世界では

とんどの親のように、だれもが私たちと関わるわけではありません。よく理解しても従わない時もあります。

日本では理解と順守の関係が壊れた場合に面目を立てる習慣があります。一つは理解しないと主張することができます。求められたように行動をしていないという暗黙の結果です。上記のテレビドラマでの主婦は、夫がしていることと夫のためにしたいということを完全に理解しているが、夫の計画を理解せず、計画に関わることは何もしたくないと言うことができます。妻は意志の疎通を理解の失敗にすりかえています。将来気を変えて、夫の不まじめなビジネスに参加した場合、以前は彼の計画を理解しなかったと言えるのです。

アメリカ人は、この妻の拒絶を夫婦間の意志の対立として見ると考えます。彼女は理解しますが、夫が求めるようしたくありません。将来協力することに同意するなら、以前は間違っていたと認めるか、彼女の心を変えさせた状況を引合いに出さなくてはなりません。いずれにしてもアメリカ人は要請を理解し同意して、行動することを自然なつながりとして見る可能性は低いです。だんだんと Nijnohin 人たちはこの点に関してアメリカ人のように考える人が増えています。この変化はアメリカの考え方が正しく、Nijnohin の方が悪いからではありません。むしろ、考えは時代の変化で起こります。消費生活、自己中心、個人主義、知らない人との接触という流動の激しい時代に多くの理解と従順な行動の方程式は役立ちません。

何年も前に宿題をしない理由を、Nijnohin とアメリカの学生たちとで比較研究しました。Nijnohin の学生は、宿題をしようとしたが、自分には難しすぎたと言う傾向がありました。宿題を理解しなかったと言い換えられます。他方、アメリカの学生たちが宿題をすることはできたが、何らかの理由があってとか、しないことに決めたと言う傾向がありました。Nijnohin の若者が今日「私は理解しなかった」と言い訳するのは少ないと思います。

 [目次へ戻る](#)